

巻 頭 言

高知女子大学看護学会長

野 嶋 佐由美

平成28年、高知県立大学は、前身の高知県立女子医学専門学校の開校から創基70周年を迎えました。創基70周年記念事業として、11月5日に記念式典・祝賀会を開催しました。この中でも、看護学科、看護学部・看護学研究科に関する事柄が多く取り上げられていました。また、高知県立大学看護学部同窓会からの生花は式典の入り口で皆様方をお迎えしておりました。

第42回高知女子大学看護学会では、高知県立大学との協賛事業として、南裕子学長を講師としてお迎えし、記念特別講演会「地域医療とケアの時代への看護学の挑戦」を開催しました。この講演会を通して、高知女子大学の歴史、看護学部の歴史を再認識する機会をいただきました。看護学部は、わが国で4年制大学における看護学教育を開始した歴史を有し、看護学教育、そして看護学の確立に挑戦し続けてきた伝統を有しております。大学の歴史は「高知女子大歴史」「高知女子大学五十年史」そして看護学部の歴史は「看護学科三十年史」等に基づきつづられており、設立当初の苦難そして維持発展させていくことの厳しさなど、諸先輩たちの闘いを知ることができます。歴史を通して、普遍的な価値を基盤としつつ、変動する社会のなかで、社会からの要請を受け、あるいは予測し、社会とともに存在することを重要視してきた看護学部の歴史について再確認しております。

大学を取り囲む状況は年々変化し、社会から大学に求められる事柄も多様化しています。昨今の、科学技術の発展は、看護学教育や看護学研究、そして看護実践に大きな影響をもたらすことが想像されます。身の回りにあらゆるモノがインターネットを通じて接続され、モニタリングやコントロールが可能になるというインターネットオブシングス (IoT)、さらに進んで人もデータも全てをインターネットで繋ぐというインターネットオブエブリシングス (IoE)、ビックデータ、人工知能等のなかで、看護学の在り方をもう一度再吟味し、対応していくことが求められます。数年後には、この学会誌に掲載される論文も、これらの変化を反映したものとなるでしょう。学術、学問の発展とともに、これまでと同様に変革していく教育機関として歩んでいくことの重要性を認識しております。

第42巻は総説2論文、原著論文6論文、研究報告2論文を掲載しています。学会員の皆様方からの博士論文、修士論文など多岐にわたっての論文を取り上げております。今後も、多くの卒業生や修了生が投稿しやすい学会誌となるように、努力を重ねて参りたいと思っています。

平成29年2月、第31回日本がん看護学会が高知で開催されます。もちろん、藤田佐和教授が学会会長です。テーマ「がん看護の跳躍する力—未来の探求」のもと、最新のがん看護に関連する知見や、がん看護学の実践の動向を知ることができます。皆様方、ぜひ高知に帰ってきて参加してください。翌年の平成30年には、長戸和子教授が日本家族看護学会の学術集会長を引き受けられています。このように高知県立大学看護学部の教員が学会をリードしていることを、嬉しく思います。そして学会員の皆様方からのご支援に感謝申し上げます。